

Dell™ PowerEdge™ 600SCシステム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)

[Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方](#)

[セットアップユーティリティの使い方](#)

[仕様](#)

[I/Oポートおよびコネクタ](#)

[用語集](#)



メモ: 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。



注意: ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。



警告: 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

Model MMT

このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。
© 2002 すべての著作権はDell Computer Corporationにあります。

Dell Computer Corporationからの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標-Dell, DELLのロゴ, PowerEdge、およびDell OpenManageはDell Computer Corporationの商標です。Intel, Pentium、およびCeleronはIntel Corporationの登録商標です。Intel386はIntel Corporationの商標です。NovellおよびNetWareはNovell, Inc.の登録商標です。Microsoft, Windows, WindowsNT、およびMS-DOSはMicrosoft Corporationの登録商標です。

このマニュアルでは、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切Dell Computer Corporationに所属するものではありません。

初版発行:2002年 4月 26日

[目次ページに戻る](#)

仕様

Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーズガイド

● 仕様

仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサのタイプ	最小内部動作周波数が2 GHz以上のIntel® Pentium® 4マイクロプロセッサ または 最小内部動作周波数が1.7 GHz以上のIntel Pentium 4 Celeron® マイクロプロセッサ
フロントサイドバス速度	400 MHz以上
内部キャッシュ	512 KB(Pentium 4)または128 KB(Celeron)レベル2キャッシュ

拡張バス	
バスタイプ	PCI
拡張スロット	64ビット、33 MHzスロット×4、および32ビット、33 MHzスロット×1

メモリ	
アーキテクチャ	72ビットECC PC-200 DDR DDR SDRAM
メモリモジュールソケット	4
メモリモジュール容量	128 MB、256 MB、512MB、または1 GB
最小メモリ容量	128 MB
最大メモリ容量	4 GB

ドライブ	
ディスクドライブ	3.5インチ、1.44 MBディスクドライブ
ハードドライブ	1インチIDEまたはSCSIハードドライブ×4
CDドライブ	IDE CDドライブ
DVDドライブ	オプションのIDE DVDドライブ
テープドライブ	オプションの内蔵SCSIまたはIDEテープドライブ

ポートおよびコネクタ	
外部アクセス用:	
シリアル(DTE)	9ピンコネクタ
パラレル	25ピンコネクタ
ビデオ	15ピンコネクタ
PS/2型キーボード	6ピンミニDINコネクタ
PS/2互換マウス	6ピンミニDINコネクタ
USB	USB準拠4ピンコネクタ×2
NIC	内蔵NIC用のRJ45コネクタ
内部アクセス用:	
EIDEチャネル	40ピンEIDEコネクタ×3

ビデオ	
ビデオタイプ	ATI Rage XLビデオコントローラ、VGAコネクタ
ビデオメモリ	8 MB

電源	
DC電源装置:	
ワット数	250 W
電圧	90~240 V、47/63 Hz
熱散逸	最大1137.7 BTU/時
出力ホールドアップ時間	最小20 ms
最大流入電流	通常のラインコンディションのもと、システムの操作可能範囲を越えて、入電量が50 Aに達することがあります。
システムバッテリー	CR2032 3.0 Vリチウムコインセル

サイズと重量	
高さ	43.1 cm
幅	20.3 cm
奥行き	49.5 cm
重さ	16.8 kg (最大構成)

環境	
温度:	
動作時	10° ~35°C
保管時	-40° ~65°C
相対湿度:	
動作時	20%~80%(結露しないこと)
保管時	5%~95%(結露しないこと)
最大振動:	
動作時	15分間に3~200 Hzで0.25G(半正弦波)
保管時	15分間に3~200 Hzで0.5 G
最大衝撃:	
動作時	x、y、z軸の正および負方向に6連続衝撃パルス(システムの側面ごとに1パルス)、2 ms以下で50 G
保管時	x、y、z軸の正および負方向に6連続衝撃パルス(システムの側面ごとに1パルス)、2 ms以下で70 G
高度:	
動作時	-16 m ~ 3,048 m
保管時	-16 m ~ 10,600 m
*メモ: この表で使用された略語の正式名称は、「用語集」を参照してください。	

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

I/Oポートおよびコネクタ

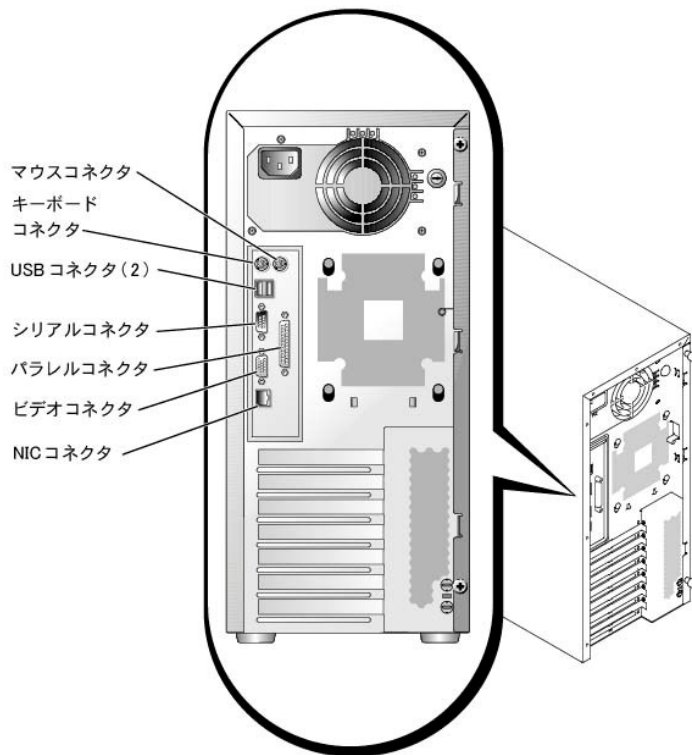
Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーズガイド

- [I/Oポートおよびコネクタ](#)
- [シリアルおよびパラレルコネクタ](#)
- [キーボードおよびマウスコネクタ](#)
- [ビデオコネクタ](#)
- [USBコネクタ](#)
- [内蔵ネットワークインターフェースコントローラコネクタ](#)

I/Oポートおよびコネクタ

このシステムは、システムの背面パネルに設置されたI/Oポートおよびコネクタを介して、キーボード、マウス、プリンタ、モニタなどの外付けデバイスと通信します。図 B-1に、システムのI/Oポートおよびコネクタを示します。

図 B-1. I/Oポートおよびコネクタ



シリアルおよびパラレルコネクタ

内蔵シリアルコネクタには、背面パネルに9ピンDサブミニコネクタが採用されています。このコネクタは、シリアルデータ転送方式（1本のデータ線を介して1ビットずつデータを送る転送方式）の外付けモデム、プリンタ、プロッタ、マウスなどのデバイスに対応します。

ほとんどのソフトウェアでは、COM（通信を意味する）という簡略用語が使われ、シリアルコネクタに対して番号（例えば、COM1）が割り当てられます。システムの内蔵シリアルコネクタに割り当てられているデフォルト指定はCOM1です。

内蔵パラレルコネクタには、システムの背面パネルに25ピンDサブミニコネクタが採用されています。このI/Oポートは、パラレル方式（8つのデータビットまたは1バイトのデータを1本のケーブルに含まれる8本のデータ線を介して同時に送る転送方式）でデータを転送します。パラレルコネクタは主にプリンタ用に使われます。

ほとんどのソフトウェアでは、LPT（ラインプリンタを意味する）という簡略用語が使われ、パラレルコネクタに対して番号（例えば、LPT1）が割り当てられます。このシステムの内蔵パラレルコネクタに割り当てられているデフォルト指定は、LPT1です。

ポート割り当ては、例えば、プリンタが接続されているコネクタを識別して、ソフトウェアがそのコネクタに出力を転送できるようにする手順を含む、ソフトウェアのインストール手順で使用します。（誤った割り当てをおこなうと、まったく印刷できなかったり、正常に印刷できません。）

シリアルまたはパラレルコネクタを搭載する拡張カード

システムは、シリアルコネクタを自動的に設定する機能を備えています。この機能を使って、内蔵コネクタと同じ割り当てのシリアルコネクタを搭載する拡張カードを再設定せずに追加できます。システムが拡張カードのシリアルコネクタを検出すると、内蔵コネクタは別の利用可能なコネクタに再マップ(再割り当て)されます。

新しいCOMコネクタおよび再マップされたCOMコネクタは、次のような同一のIRQ(割り込み要求)設定を共有します。

- 1 COM1, COM3: IRQ4(共有設定)

これらのCOMポートのI/Oアドレス設定は次のようになります。

- 1 COM1: 3F8h
- 1 COM3: 3E8h

例えば、COM1のポートに内蔵モデムカードを追加すると、システムが論理COM1をモデムカードのアドレスとして認識します。COM1に割り当てられた内蔵シリアルコネクタは、COM1 IRQ設定を共有するCOM3に自動的に再マップされます。(1つのIRQ設定を2つのCOMポートが共有する場合、必要に応じてどちらか1つのポートを使用できますが、同時に両方のポートを使用できない場合があります。)COM1およびCOM3に割り当てられているシリアルコネクタを搭載する1つまたは複数の拡張カードを取り付けた場合、内蔵シリアルコネクタは無効になります。

COMポートの再マップがおこなわれるカードを追加する前に、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照して、ソフトウェアを新しいCOMポート指定にマップできるかどうかを確認してください。

システムによる自動設定を避けるため、内蔵コネクタの指定が変更されずに、カードのポート指定が次の使用可能なCOM番号に変更されるように、拡張カードのジャンパをリセットすることができます。また、セットアップユーティリティを使って内蔵コネクタを無効にすることもできます。拡張カードのマニュアルを参照して、カードのデフォルトI/Oアドレスおよび使用可能なIRQ設定を確認することができます。必要に応じて、コネクタの再アドレスおよびIRQ設定の変更に関する手順も参照してください。

拡張カードを追加する場合、例えば、パラレルコネクタがLPT1(IRQ7、I/Oアドレス378h)に設定されているときは、セットアップユーティリティを起動して、内蔵パラレルコネクタを再マップする必要があります。

シリアルおよびパラレルポートに対するオペレーティングシステムの処理方法に関する一般情報、およびコマンド手順の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

シリアルコネクタ

ハードウェアを再設定する場合、シリアルコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図 B-2 に、シリアルコネクタのピン番号を示し、表 B-1 では、シリアルコネクタのピン番号の割り当て、およびインタフェースシグナルを定義します。

図 B-2. シリアルコネクタのピン番号

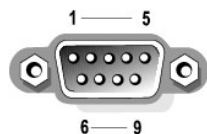


表 B-1. シリアルコネクタのピン番号の割り当て

ピン	シグナル	I/O	定義
1	DCD	I	データキャリア検出
2	SIN	I	シリアル入力
3	SOUT	O	シリアル出力
4	DTR	O	データ端末準備完了
5	GND	—	シグナルアース
6	DSR	I	データセット準備完了
7	RTS	O	送信要求
8	CTS	I	送信クリア
9	RI	I	リングインジケータ
シェル	—	—	シャーシアース

パラレルコネクタ

ハードウェアを再設定する場合、パラレルコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図 B-3 に、パラレルコネクタのピン番号を示し、表 B-2 では、パラレルコネクタのピン番号の割り当て、およびインタフェースシグナルを定義します。

図 B-3. パラレルコネクタのピン番号

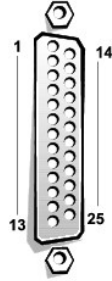


表 B-2. パラレルコネクタのピン番号の割り当て

ピン	シグナル	I/O	定義
1	STB#	I/O	ストローブ
2	PD0	I/O	プリンタデータビット0
3	PD1	I/O	プリンタデータビット1
4	PD2	I/O	プリンタデータビット2
5	PD3	I/O	プリンタデータビット3
6	PD4	I/O	プリンタデータビット4
7	PD5	I/O	プリンタデータビット5
8	PD6	I/O	プリンタデータビット6
9	PD7	I/O	プリンタデータビット7
10	ACK#	I	確認
11	BUSY	I	ビジー
12	PE	I	用紙エンド
13	SLCT	I	セレクト
14	AFD#	O	自動給紙
15	ERR#	I	エラー
16	INIT#	O	プリンタの初期化
17	SLIN#	O	セレクトイン
18~25	GND	—	シグナルアース

キーボードおよびマウスコネクタ

このシステムはPS/2互換キーボードおよびマウスをサポートします。両方のデバイスのケーブルは、システムの背面パネルに設置されている6ピンミニDINコネクタに接続します。

マウスドライバソフトウェアは、新しいマウスの動きを検出すると、IRQ12を割り当ててマイクロプロセッサにマウス優先割り込み処理を要求します。またドライバソフトウェアは、制御中のアプリケーションプログラムへマウスデータを送信します。

キーボードおよびマウスコネクタ

ハードウェアを再設定する場合、キーボードコネクタまたはマウスコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図 B-4に、キーボードおよびマウスコネクタのピン番号を示し、表 B-3では、キーボードおよびマウスコネクタのピン番号の割り当て、およびインタフェースシグナルを定義します。

図 B-4. キーボードおよびマウスコネクタのピン番号



表 B-3. キーボードおよびマウスコネクタのピン番号の割り当て

ピン	シグナル	I/O	定義
1	KBDATAまたはMFDATA	I/O	キーボードデータまたはマウスデータ
2	NC	—	接続なし
3	GND	—	シグナルアース

4	FVcc	—	ヒューズ供給電圧
5	KBCLKまたはMFCLK	I/O	キーボードクロックまたはマウスクロック
6	NC	—	接続なし
シェル	—	—	シャーシアース

ビデオコネクタ

このシステムでは、システム背面にある15ピンの高集積Dサブミニコネクタを使ってVGA(ビデオグラフィックアレイ)互換モニタを接続します。システム基板のビデオ回路は、モニタの赤色、緑色、青色の電子銃を操作するシグナルを同期化します。

メモ: ビデオカードを取り付けると、システムの内蔵ビデオサブシステムが自動的に無効になります。

ハードウェアを再構成する場合、ビデオコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図 B-5に、ビデオコネクタのピン番号を示し、表 B-4では、ビデオコネクタのピン番号の割り当て、およびインタフェースシグナルを定義します。

図 B-5. ビデオコネクタのピン番号

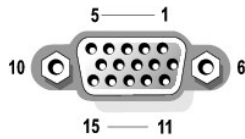


表 B-4. ビデオコネクタのピン番号の割り当て

ピン	シグナル	I/O	定義
1	RED	O	赤色ビデオ
2	GREEN	O	緑色ビデオ
3	BLUE	O	青色ビデオ
4	NC	—	接続なし
5~8、10	GND	—	シグナルアース
9	VCC	—	Vcc
11	NC	—	接続なし
12	DDCデータアウト	O	モニタ検出データ
13	HSYNC	O	水平同期化
14	VSYSNC	O	垂直同期化

USBコネクタ

このシステムは、USB互換デバイスを接続する2つのUSBコネクタを装備しています。USBデバイスとは、通常マウス、プリンタ、キーボードおよびシステムスピーカなどの周辺機器です。

注意: 1つのチャンネルにつき500 mAまたは+5 Vの最大電流を超える1つまたは複数のUSBデバイスを接続しないでください。この限界値を超えるデバイスを接続するとUSBポートがシャットダウンする場合があります。USBデバイスの最大電流値については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

ハードウェアを再設定する場合、USBコネクタのピン番号およびシグナル情報が必要となります。図 B-6に、USBコネクタのピン番号を示し、表 B-5では、USBコネクタのピン番号の割り当て、およびインタフェースシグナルを定義します。

図 B-6. USBコネクタのピン番号



表 B-5. USBコネクタのピン番号の割り当て

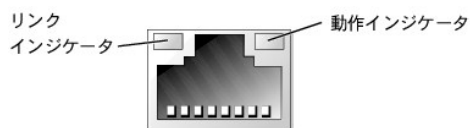
ピン	シグナル	I/O	定義
1	Vcc	—	供給電圧
2	DATA	I	データ入力

3	+DATA	○	データ出力
4	GND	—	シグナルアース

内蔵ネットワークインタフェースコントローラコネクタ

このシステムは、10/100/1000 Mbpsの内蔵NIC(ネットワークインタフェースコントローラ)を搭載しています。NICは、個別ネットワーク拡張カードのすべての機能を提供します。また、サーバとワークステーション間の通信を提供し、その他のアプリケーション用のシステムリソースを解放してホストリソースを効率的に活用できるようにします。NICは、10 Base-T、100 Base-TX、および1000 Base-T Ethernet標準をサポートしています。

図 B-7. NICコネクタ



ネットワークケーブル要件

このシステムのRJ45 NICコネクタは、UTP(シールドなしのツイストペア)Ethernetケーブル用に設計されており、RJ45互換の標準プラグがついています。UTPケーブルの一方の端をNICコネクタの所定の位置にカチッと鳴るまで押し入れ、しっかりと接続します。ケーブルのもう一方の端はネットワーク設定に基づき、RJ45ジャックウォールプレート、またはUTP集線装置、またはハブ上のRJ45ポートに接続します。10 Base-T、100 Base-TX、および1000 Base-Tネットワークの次のケーブル要件に従ってください。

注意: 回線妨害を防ぐため、音声およびデータ回線は別のシースで保護する必要があります。

- 1 カテゴリ5以上のワイヤおよびコネクタを使用します。
- 1 ケーブルの最大長(ワークステーションからハブまで)は100 mです。
- 1 ネットワーク操作のガイドラインは、IEEE 802.3標準の「Systems Considerations of Multi-Segment Networks」にあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

システムの概要

Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーズガイド

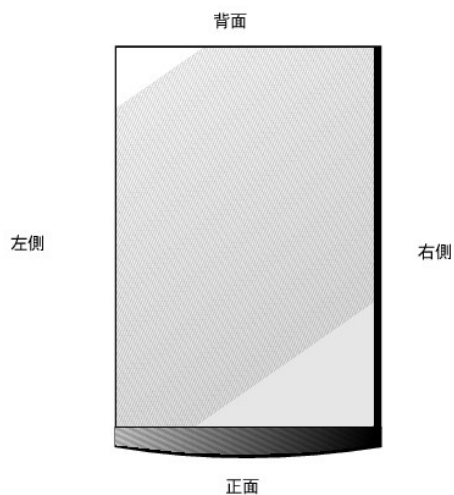
- [システムの向き](#)
- [正面パネルインジケータおよびその機能](#)
- [背面パネルの機能](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートされているオペレーティングシステム](#)
- [電源保護装置](#)
- [その他のマニュアル](#)
- [テクニカルサポートを受けるには](#)

お使いのシステムは、カスタマの規模の大小にかかわらず、信頼性の高いプラットフォームを提供します。本章では、主要なハードウェアおよびソフトウェアの機能、システムの正面パネルにあるインジケータ、および外付けデバイスのシステムへの接続方法について説明します。Dellからサポートを受ける方法についても説明します。

システムの向き

このマニュアルの手順を実行する場合、システムの位置や向きを、図 1-1に示していますので確認してください。

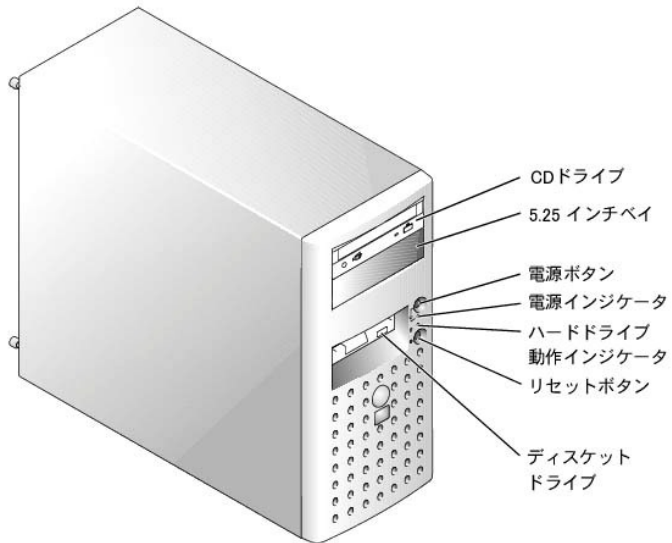
図 1-1. システムの向き(上からの図)



正面パネルインジケータおよびその機能

図 1-2に、システムの正面パネルにあるインジケータ、および機能を示します。

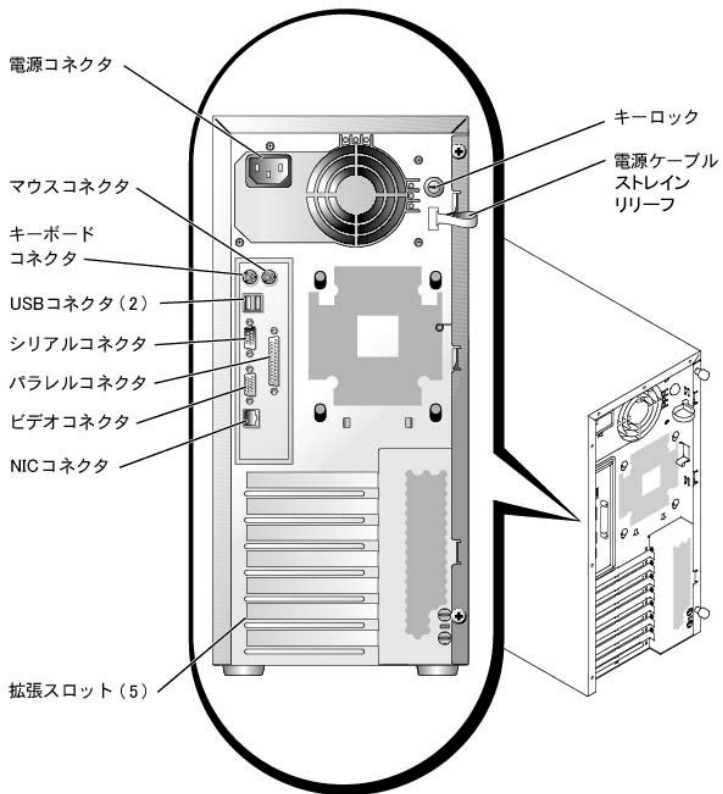
図 1-2. 正面パネルの機能



背面パネルの機能

図 1-3 に、システムの背面パネルの機能を示します。

図 1-3. 背面パネルの機能



システムに外付けデバイスを接続する場合、次のガイドラインに従ってください。

- 1 デバイスに固有の取り付けおよび設定手順がないか、デバイスに付属のマニュアルを確認します。例えば、ほとんどのデバイスは特定コネクタに接続しないと正常に動作しません。また、通常外付けデバイスは、動作させる前にデバイスドライバをインストールする必要があります。デバイスドライバは、通常オペレーティングシステムソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。
- 1 外付けデバイスは、システムがオフのときのみ取り付けます。デバイスのマニュアルに特別の指示がない限り、システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます。(システムがデバイスを認識しない場合、デバイスの電源を入れる前に、システムの電源を入れてみます。)

I/Oポートやコネクタを有効または無効にする方法、および設定方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

システムの機能

お使いのシステムには、次の機能が搭載されています。

- 1 Intel® Pentium® 4 マイクロプロセッサ(速度2 GHz以上、フロントサイドバス速度400 MHz、512 KBLレベル2キャッシュ)
- または
- 1 Intel Pentium 4 Celeron® マイクロプロセッサ(速度1.7 GHz以上、フロントサイドバス速度400 MHz、128 KBLレベル2キャッシュ)
- 1 最小容量128 MBのECC PC-200 DDR SDRAMメモリは、システム基板上の4つのメモリモジュールソケットに128 MB、256 MB、512 MB、または1 GBのレジスタメモリモジュールを取り付けることによって、4 GBまで増設できます。
- 1 内蔵IDEハードドライブを最大4台、またはオプションのSCSIコントローラカード搭載の内蔵Ultra3 SCSIハードドライブを最大4台サポート
- 1 オプションのCERC(費用効率の高いRAIDコントローラ)カード (IDE RAID)
- 1 オプションのPERC 3/SCカード(SCSI RAID)
- 1 オプションの内蔵IDEまたはSCSIテープドライブ

システム基板には、次の機能が内蔵されています。

- 1 システム基板上にPCI拡張スロットが5つ。PCIスロット1~4は、64ビット、33 MHz、3.3 Vスロットです。PCI スロット5は、32ビット33 MHz、3.3 Vスロットです。
- 1 ATI RAGE XLビデオコントローラ搭載の内蔵VGA互換ビデオサブシステム。このビデオサブシステムには、8 MBのSDRAMビデオメモリが組み込まれています(アップグレード不可)。最大解像度は、1600×1200ピクセルおよび1670万色(非インタレース)。
- 1 3つのチャネルを持つ、組み込み型IDEコントローラ
- 1 10 Mbps、100 Mbps、および1000 Mbpsのデータ転送速度をサポートできる内蔵Gigabit Ethernet NIC
- 1 重大なシステムの電圧および温度を監視するサーバ管理回路。サーバ管理回路は、サーバ管理ソフトウェアと連動します。

標準のシステムには、フロントベイにIDE CDDドライブおよびディスクドライブが組み込まれています。

お使いのシステムには、次のソフトウェアが付属しています。

- 1 システム設定情報をすばやく表示したり変更できる、セットアップユーティリティ。このプログラムの詳細は、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。
- 1 セットアップユーティリティから利用可能なユーザーパスワードおよびスーパーバイザパスワードを含む、強化されたセキュリティ機能。
- 1 システムのコンポーネントおよびデバイスを評価するための診断プログラム。システム診断プログラムの使用方法についての情報は、『インストール&トラブルシューティング』の「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステム

お使いのシステムは、次のオペレーティングシステムをサポートします。

- 1 Microsoft® Windows® 2000 Server
- 1 Microsoft Windows 2000 SBS
- 1 Red Hat Linux 7.3以降
- 1 Novell® NetWare® バージョン6.0以降

電源保護装置

無電圧変動、過渡電流、停電などの電力障害からシステムを保護する多くのデバイスが利用できます。次項では、これらのデバイスのうちのいくつかについて説明します。

サージプロテクタ

サージプロテクタにはいろいろな種類があり、通常、保護レベルはサージプロテクタの価格に対応しています。サージプロテクタは、雷雨中等に発生する電圧変動が、コンセントを介してシステムに侵入するのを防ぎます。ただし、サージプロテクタは、電圧が通常のACライン電圧レベルより20%以上低下した時に起こる電圧低下に対する保護は提供しません。

ラインコンディショナ

ラインコンディショナは、サージプロテクタよりも過電圧に対してより強力に保護します。ラインコンディショナはシステムのAC電源電圧を一定に保ち、電圧低下からも保護します。このより強力な保護機能があるため、ラインコンディショナはサージプロテクタに比べて数万円高くなっています。ただし、これらのデバイスは完全な停電からはコンピュータを保護できません。


無停電電源装置

無停電電源装置(UPS)システムは、各種電源障害に対してもっとも完全な保護を提供します。これは、AC電力が供給されなくなった際に、バッテリーから電源を供給してシステムを動作し続けるからです。バッテリーはAC電力が利用可能な間に充電されます。AC電力が供給されなくなると、UPSシステムに応じて15分から1時間の限られた時間、バッテリーからシステムに電力が供給されます。

UPSシステムの価格は数万円から数十万円します。価格の高いUPSを使うと、AC電力が供給されなくなったときに、より大きなシステムをより長時間稼働できます。バッテリーで5分間しか電力を供給できないUPSシステムでは、システムの通常のシャットダウンしかできず、続けての操作はできません。UPSシステムはサージプロテクタといっしょに使用してください。UPSシステムはULの安全基準に合格しているものをお使いください。


その他のマニュアル

この『ユーザーズガイド』以外にも、次のマニュアルがシステムに付属しています。

 『システム情報ガイド』では、安全および認可機能に関する情報について説明しています。保証に関する情報は、『サービス&サポートのご案内』を参照してください。

- 1 システムをセットアップするための、一般的な手順を記載した『システムのセットアップ』マニュアル。
- 1 『インストール&トラブルシューティング』では、システムのアップグレードやトラブルシューティングの方法について説明しています。
- 1 システム管理ソフトウェアのマニュアルでは、サーバ管理ソフトウェアの機能、必要条件、インストール、および基本操作について説明しています。このソフトウェアが発行する警告メッセージについては、ソフトウェアのオンラインヘルプを参照してください。

また、次のマニュアルが付属している場合があります。

 **メモ:** システムまたはソフトウェアの変更について説明したマニュアルアップデートがシステムに同梱されていることがあります。最新の情報が含まれていることがよくあるので、他のマニュアルの前にこのアップデートマニュアルをお読みください。

- 1 オペレーティングシステムソフトウェアをDellから購入された場合、オペレーティングシステムのマニュアルが付属しています。オペレーティングシステムソフトウェアの使い方や、再インストールが必要になった場合の設定方法などが記載されています。
- 1 システムとは別に購入した各種オプションのマニュアル。お使いのDellシステムにこれらのオプションを取り付け、設定するために必要な情報が記載されています。オプションのインストール手順については、この『ユーザーズガイド』に記載されています。
- 1 技術情報ファイル (readmeファイルとも呼ばれます)。システムのハードドライブには、マニュアルの印刷後にシステムに追加された変更や、技術者および専門知識をお持ちのユーザーを対象とする、テクニカルリファレンスが記載されたreadmeファイルがインストールされていることがあります。

テクニカルサポートを受けるには

このマニュアルで説明されている手順がわからない場合や、システムが思った通りに動作しない場合に備えて、Dellでは各種ツールを用意しています。ヘルプツールの詳細については、『インストール&トラブルシューティング』にある「困ったときは」を参照してください。Dell Enterprise Training and Certificationが現在ご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/trainingを参照してください。このサービスはすべての地域で提供されているわけではありません。

[目次ページに戻る](#)


[目次ページに戻る](#)

Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方

Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーズガイド

- [Dell OpenManage Server Assistant CDの起動](#)
- [CDの操作](#)
- [システムのセットアップ](#)
- [ユーティリティパーティション](#)
- [管理タグ設定ユーティリティ](#)

『Dell OpenManage Server Assistant CD』には、お使いのシステムを最適に設定するために役立つユーティリティ、診断プログラム、ドライバが収録されています。『Dell OpenManage Server Assistant CD』で利用できるいくつかの機能は、ハードドライブにインストールされている起動ユーティリティパーティションでも利用できます。この章では、『Dell OpenManage Server Assistant CD』の使い方について説明します。また、ユーティリティパーティションおよびそのオプション、パーティションの再インストール手順(必要な場合)についても説明します。

 **メモ:** お使いのサーバにオペレーティングシステムまたはソリューションソフトウェアがプリインストールされている場合、『Dell OpenManage Server Assistant CD』の初回の導入は必要ありません。

Dell OpenManage Server Assistant CDの起動

Dell OpenManage™ Server Assistantアプリケーションプログラムには、2通りの操作モードがあります。システムを設定したりオペレーティングシステムをインストールするためのセットアップモード、またはドライバおよびユーティリティをアップデートするためのサービスモードです。製品マニュアルは、マニュアルのCDから入手できます。

セットアップモード

システムをセットアップして、オペレーティングシステムをインストールするには、『Dell OpenManage Server Assistant CD』をCDドライブに挿入して、システムの電源を入れるか、再起動します。Dell OpenManage Server Assistantメイン画面が表示されます。

CDが起動しない場合、セットアップユーティリティのBoot Sequenceオプションで、CDドライブが最初に起動するよう指定されているか確認します(「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照)。

サービスモード

Microsoft® Internet Explorer 4.0以降、またはNetscape Navigator 6.0以降が実行されているシステムでは、アップデートドライバやユーティリティを作成することができます。Microsoft Windows NT® またはWindows® 2000 Serverオペレーティングシステムを使用しているシステムにCDを挿入すると、ブラウザソフトウェアが自動的に起動して、Dell OpenManage Server Assistantメインページが表示されます。

CDの操作

『Server Assistant CD』では、標準のウェブブラウザインタフェースを使用します。CDを操作するには、各種アイコンやテキストのハイパーリンク上でマウスをクリックします。

CDをサービスモードで使用している場合、Exitアイコンをクリックして、プログラムを終了します。セットアップモードのプログラムを終了すると、システムは標準のオペレーティングシステム起動パーティションに再起動します。

システムのセットアップ

オペレーティングシステムがプリインストールされていないシステムを購入する場合、または後日オペレーティングシステムを再インストールする場合、サーバセットアップ機能を使って、システムを設定したり、オペレーティングシステムをインストールします。

サーバセットアップ

オペレーティングシステムのインストールおよび再インストールを含む、ほとんどの場合で、サーバセットアップ機能を使用します。『Dell OpenManage Server Assistant CD』では、オペレーティングシステムのセットアップおよび設定のプロセスが順序だてて説明されています。画面上に、ドライブで使用するオペレーティングシステムの選択と、オペレーティングシステムのインストール方法が順を追って表示されます。

サーバセットアップ機能を起動するには、次の手順を実行します。


1. Dell OpenManage Server Assistantメイン画面で、Server Setupをクリックします。
2. 画面上の説明に従い、インストールと設定を完了します。

サーバセットアップ機能を使って次のタスクが実行できます。

- 1 システムの日付と時間の設定
- 1 RAIDコントローラの設定(適用できる場合)
- 1 オペレーティングシステムの選択
- 1 ハードドライブの設定
- 1 オペレーティングシステム情報の入力
- 1 インストール要約の表示
- 1 オペレーティングシステムのインストール

ユーティリティパーティション

ユーティリティパーティションはハードドライブ上の起動パーティションであり、システム設定や診断ユーティリティを含んでいます。実装されるとパーティションが起動し、パーティションのユーティリティの実行環境が用意されます。ユーティリティパーティションが起動しない場合、非MS-DOS®パーティションとして指定されます。

 **メモ:** ユーティリティパーティションで用意されているMS-DOS機能は限られており、汎用のMS-DOSパーティションとして使うことはできません。

ユーティリティパーティションを起動するには、システムの電源を入れるか、再起動します。POST中に、次の画面が表示されたら、<F10>を押します。

```
<F10> = Utility Mode
```

ユーティリティパーティションでは、テキストベースのインターフェースによってパーティションのユーティリティを実行します。メニューオプションを選択するには、矢印キーを使ってオプションをハイライト表示してから<Enter>を押すか、または、メニューオプション番号を入力します。ユーティリティパーティションを終了するには、Utility Partitionメインメニューから<Esc>を押します。

表 2-1に、『Dell OpenManage Server Assistant CD』がCDドライブに挿入されていない場合、ユーティリティパーティションメニューに表示されるサンプラー一覧およびオプションの説明を示します。システム画面に表示されるオプションは、設定によって異なる場合があります。

表 2-1. ユーティリティパーティションのメインメニューオプション

オプション	説明
Run system diagnostics	システムハードウェアの診断プログラムを実行します。
Run RAID configuration utility	オプションのRAIDコントローラカードが取り付けられている場合、RAID設定ユーティリティが実行されます。

メモ: システム画面に表示されるオプションはシステム設定によって異なり、ここに挙げたすべての項目が含まれていない場合もあります。この表で使用された略語の正式名称は、「用語集」を参照してください。

システム診断プログラムの実行

Utility PartitionメインメニューからRun System Diagnosticsを選びます。


システムハードウェアの診断プログラムについては、『インストール&トラブルシューティング』の「システム診断プログラムの実行」で説明しています。

RAID設定ユーティリティの実行

Utility PartitionメインメニューからRun RAID Configuration Utilityを選びます。

管理タグ設定ユーティリティ


管理タグ設定ユーティリティを使って、システムに対して管理タグ番号を割り当てることができます。

 **メモ:** 管理タグ設定ユーティリティが動作するのは、MS-DOSが実行されているシステムに限られます。

管理タグ設定ユーティリティディスクレットの作成

管理タグ設定ユーティリティ起動ディスクレットを作成するには、次の手順を実行します。

- 『Dell OpenManage Server Assistant CD』をMicrosoft Windowsオペレーティングシステムを実行しているワークステーションのCDドライブに挿入します。
- 空のディスクレットをワークステーションのディスクレットドライブに挿入します。
- Dell OpenManage Server Assistantメインページで、System ToolsメニューからCreate CD Boot Disketteを選びます。

 **メモ:** 管理タグ設定ユーティリティディスクレットにはCDドライブが収録されていて、ディスクレットから起動したときに、このドライブによってCDドライブにアクセスすることができます。

管理タグ番号の割り当ておよび削除

管理タグ番号は最大で10文字です。スペースを含むすべての文字の組み合わせが有効です。

管理タグ番号を割り当てる、または変更するには、次の手順を実行します。

- 管理タグ設定ユーティリティの起動ディスクレットをディスクレットドライブに挿入して、システムを再起動します。
- asset とスペースを入力して、その後新しいストリングを入力します。

例えば、a:¥> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
asset 12345abcde
```

- <Enter>を押します。
- 管理タグ番号の確認を要求するメッセージが表示されたら、yを入力して、<Enter>を押します。

新しい、または変更された管理タグ番号およびサービスタグナンバーがシステムに表示されます。

新しい番号を割り当てずに管理タグ番号を削除するには、asset /d と入力して、<Enter>を押します。

表 2-2に、管理タグ設定ユーティリティで使用できるコマンドラインのオプションを一覧表示します。これらのオプションを使うには、asset およびスペースを入力して、その後オプションを続けて入力

ます。

表 2-2. 管理タグコマンドラインオプション

管理タグオプション	説明
/d	管理タグ番号を削除します。
/?	管理タグ設定ユーティリティのヘルプ画面を表示します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップユーティリティオプション](#)
- [システムパスワード機能の使い方](#)
- [セットアップパスワード機能の使い方](#)
- [パスワードを忘れたとき](#)

システムの電源を入れる度に、システム基板のNVRAMに格納されているシステム設定情報のハードウェアリストに対して、現在システムに取り付けられているハードウェアの構成が比較されます。システムによって不一致が検出されると、不適切な設定があることを知らせるエラーメッセージが生成されます。次に、設定を修正するために、セットアップユーティリティを起動するように尋ねるプロンプトが表示されます。

セットアップユーティリティは次のような場合に使用できます。

- 1 システムに対してハードウェアの追加、変更、または取り外しを実行した後に、システム設定情報を変更する場合
- 1 システムの時刻または日付の変更など、ユーザーが選択可能なオプションを設定または変更する場合
- 1 システムの内蔵デバイスを有効、または無効にする場合

システムのセットアップが終了したら、システム設定情報およびオプション設定を理解するために、セットアップユーティリティを実行します。参照用にセットアップユーティリティ画面を印刷するか(<Print Screen>を押す)、その情報を記録してください。

セットアップユーティリティを使用する前に、システムに接続されているディスクドライブおよびハードドライブのタイプを確認してください。この情報が不明な場合は、システムに付属の製造テスト報告(Manufacturing Test Report)を参照してください。システムのハードドライブ上のDell **アクセサリ**フォルダの製造テスト報告(Manufacturing Test Report)にアクセスできます。

セットアップユーティリティの起動

セットアップユーティリティを次のように起動します。

- 1 システムの電源を入れます。

システムが既に動作している場合、一度電源を切ってから再起動します。

- 2 次のメッセージが表示されたら、素早く<F2>を押します。


Press <F2> for System Setup

(セットアップユーティリティ用に<F2>を押します)


You can also press <F10> to enter Utility Mode or <F12> for Pre-boot eXecution Environment (PXE) boot. PXE boot forces the system to boot from the network.

<F10> を押してユーティリティモードを起動したり、PXE (Pre-boot eXecution Environment) 起動のために<F12>を押すこともできます。PXE起動は、強制的にシステムをネットワークから起動します。

ここで時間を過ぎすぎず、オペレーティングシステムがメモリにロードされ始めた場合、システムのロード処理を完了させてからシステムをシャットダウンして、もう一度実行します。

 **メモ:** 適切なシステムシャットダウン方法については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

特定のエラーメッセージに対応することによっても、セットアップユーティリティを起動できます。「[エラーメッセージへの対応](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップユーティリティの使用法のヘルプを見るには、<F1>を押します。

エラーメッセージへの対応

システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合、メッセージをメモしてください。次に、セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール&トラブルシューティング』の「システムブートコード」および「システムメッセージ」を参照して、メッセージの意味やエラー修正の方法を調べてください。(メモリアップグレードを取り付けた後で最初にシステムを起動すると、通常エラーメッセージが表示されます。この状況では、「システムブートコード」および「システムメッセージ」は参照しないでください。かわりに、『インストール&トラブルシューティング』にある「メモリアップグレードの実行」のメモリアップグレードの実行手順に従ってください。

<F1>を押して続行するか、または<F2>を押してセットアップユーティリティを実行するかのどちらかを選択できる場合は、<F2>を押します。

セットアップユーティリティの使い方

表 3-1に、セットアップユーティリティの情報を表示および変更したり、プログラムを終了するときに使うキーの一覧を示します。

表 3-1. セットアップユーティリティのナビゲーションキー

キー	処置
下矢印または<Tab>	次のフィールドへ移動します。
上矢印または<Tab><Shift>	前のフィールドへ移動します。
左右矢印キー	フィールドの設定を順に切り替えます。多くのフィールドでは適切な値を直接入力することもできます。

<Esc>	<p>変更をおこなった場合、セットアップユーティリティを終了してシステムを再起動します。</p> <p>ほとんどのオプションでは、変更内容が自動的に記録されますが、それが実際に有効になるのはシステムの再起動後からです。変更した直後に有効になるオプションもあります(ヘルプエリアを参照)。</p>
-------	---

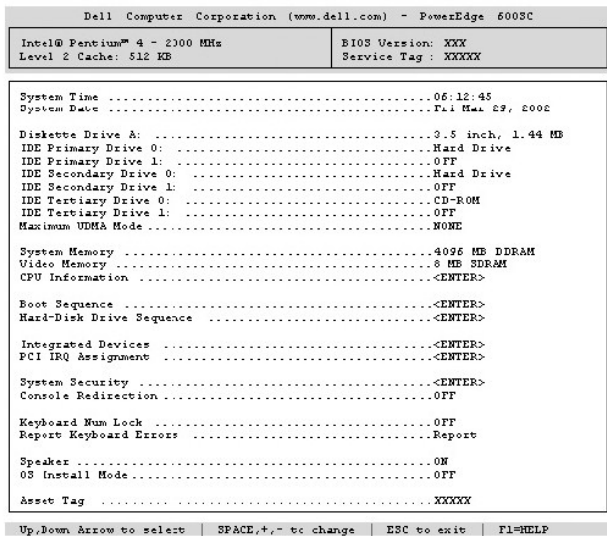
セットアップユーティリティオプション

次項では、セットアップユーティリティ画面上の各オプションの概要について説明します。

メイン画面

セットアップユーティリティを起動すると、メインプログラム画面が表示されます(図 3-1参照)。

図 3-1. メインセットアップユーティリティ画面



次のオプションおよび情報フィールドが、メインのメインセットアップユーティリティ画面に表示されます。

- 1 System Time — システムの内部時計の時刻をリセットします。
- 1 System Date — システムの内蔵カレンダーの日付をリセットします。
- 1 Diskette Drive A: — システムに取り付けられているディスクドライブの種類を識別します。
- 1 IDE Primary Drive 0 — ドライブ0としてプライマリIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 IDE Primary Drive 1 — ドライブ1としてプライマリIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 IDE Secondary Drive 0 — ドライブ0としてセカンドIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 IDE Secondary Drive 1 — ドライブ1としてセカンドIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 IDE Tertiary Drive 0 — ドライブ0として第3のIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 IDE Tertiary Drive 1 — ドライブ1として第3のIDEチャネルに取り付けられたIDEデバイスのタイプを識別します。
- 1 Maximum UDMA Mode — オプションのIDEハードドライブが動作する速度を決定します。
- 1 System Memory — システムメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 Video Memory — ビデオメモリの容量を表示します。このオプションには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 CPU Information — システムのバスおよびマイクロプロセッサに関連した情報が表示されます。この画面には、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 Boot Sequence — 本章で後述する、Boot Sequence画面が表示されます。
- 1 Hard-Disk Drive Sequence — 本章で後述する、Hard-Disk Drive Sequence画面が表示されます。
- 1 Integrated Devices — 本章で後述する、Integrated Devices画面が表示されます。
- 1 PCI IRQ Assignment — PCIバスの内蔵デバイスのそれぞれに割り当てられているIRQ、またはIRQを必要とするすべての搭載済み拡張カードを変更できる画面を表示します。
- 1 System Security — システムパスワードおよびセットアップパスワード機能を設定することができる画面を表示します。[「システムパスワード機能の使い方」](#)および[「セットアップパスワード機能の使い方」](#)を参照してください。
- 1 Console Redirection — このシステムではサポートされていません。
- 1 Keyboard Numlock — 101あるいは102キーのキーボード(このオプションは、84キーのキーボードには適用されません)でNumlockモードが有効な状態でシステムが起動するかどうかを決定します。
- 1 Report Keyboard Error — POST中に検出されたキーボードエラーの報告機能を有効または無効にします。このオプションは、固定装備のキーボードを備えていないセルフ起動サーバやホストシステムに適用すると便利です。こうした条件では、Do Not Reportを選択すると、POST実行中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するすべてのエラーメッセージが省略されます。キーボードが取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作に対する影響はありません。

- 1 **Speaker** — システムスピーカーを有効または無効にします。
- 1 **OS Install Mode** — オペレーティングシステムに利用できるメモリの最大容量を決定します。オペレーティングシステムの中には、2 GB以上のシステムメモリではインストールできないものもあります。Onに設定すると、利用可能な最大メモリは256 MBです。Off(デフォルト)に設定すると、すべてのシステムメモリをオペレーティングシステムに利用できます。このオプションは、オペレーティングシステムをインストール中はOnにして、インストールが終了したらOffにします。
- 1 **Asset Tag** — 管理タグコードが指定されている場合、ユーザーがシステムに対して指定可能な管理タグコードを表示します。10文字までの管理タグ番号をNVRAMに割り当てるには、「Dell OpenManage Server Assistant CDの使い方」の「[管理タグ設定ユーティリティ](#)」を参照してください。

Boot Sequence画面

Boot Sequence画面オプションは、システムが起動時にロードする必要があるファイルを探す順序を決定します。使用可能なオプションには、ディストドライブ、CDドライブまたはDVDドライブ、ハードドライブ、あるいはNICが含まれます(ネットワークからのPXE起動が可能)。デバイスを選んでスペースバーを押し、そのデバイスを有効または無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->キーを使用します。

Hard-Disk Drive Sequence画面

Hard-Disk Drive Sequence画面オプションは、起動時にロードする必要があるファイルをシステムが検索するハードドライブの順序を決定します。お使いのシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。デバイスを選んでスペースバーを押し、そのデバイスを有効または無効にできます。デバイスを検索する順序を変更するには、<+>および<->キーを使用します。

Integrated Devices画面

この画面で、システム基板上の次のデバイスを設定します。

- 1 **IDE Controller** — IDEコントローラを有効または無効にします。変更は再起動の後に有効になります。
- 1 **Network Interface Controller** — PXEシステム起動オプションを有効にするかどうかを決定します。使用可能なオプションは、On with PXEおよびOn without PXEです。変更は再起動の後に有効になります。
- 1 **NIC MAC Address** — 内蔵NICが使用するMACアドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
- 1 **Serial Port 1** — システムの内蔵シリアルポートを設定します。これらのオプションは、自動的にポートを設定するAuto(デフォルト)、特定の指定先、またはポートを無効にするOffに設定することができます。

シリアルポートをAutoに設定し、同じ指定機能に設定されているポートを搭載する拡張カードを追加した場合、システムは、内蔵ポートを次の利用可能な同じIRQ設定を共有しているポート指定に、自動的に再マップします。

- 1 **Parallel Port** — システムの内蔵パラレルポートを設定します。
- 1 **Parallel Port Mode** — システム内蔵のパラレルポートを、AT互換(一方方向)ポートとして使用するか、またはPS/2互換(双方向)ポートとして使用するかを設定できます。使用するモードを決定するときは、ポートに接続された周辺機器に付属のマニュアルを参照してください。
- 1 **USB Controller** — USBコントローラのステータスをOn with BIOS Support、On Without BIOS Support、またはOffに設定します。PS/2キーボードが接続されている場合、On Without BIOS SupportはBIOS USBサポートを無効にします。PS/2キーボードが接続されていない場合にOn Without BIOS Supportを選択すると、USBマウスおよびキーボードは起動中のみ機能します。On With BIOS Supportに設定すると、USBマウスおよびキーボードは、オペレーティングシステムのドライバがロードされるまでBIOSによって制御されます。
- 1 **Diskette Controller** — システムのディスクドライブコントローラを有効または無効にします。Auto(デフォルト)を選択すると、拡張スロットに取り付けられているコントローラカードを使用する必要がある場合、システムはコントローラをオフにします。Write Protectを選択すると、ディスクを読み取ることはできませんが、書き込むことはできません。

System Security画面


System Security画面を使って次のセキュリティ機能を設定できます。

- 1 **Password Status** — Setup PasswordをEnabledに設定すると、システムパスワードをシステム起動時に変更または無効にできなくなります。


システムパスワードをロックするには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを設定して、次にPassword StatusオプションをLockedに変更します。この状態では、System Passwordオプションを使ってシステムパスワードを変更したり、<Ctrl><Enter>を押しシステム起動時にパスワードを無効にすることはできません。

システムパスワードのロックを解除するには、まずSetup Passwordオプションでセットアップパスワードを入力して、Password StatusオプションをUnlockedに変更する必要があります。この状態では、<Ctrl><Enter>を押しシステム起動時にシステムパスワードを無効にしたり、System Passwordオプションを使ってシステムパスワードを変更することができます。

- 1 **System Password** — システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいパスワードの設定および検証を実行できます。

 **メモ:** システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更に関する手順については、「[システムパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れてしまったシステムパスワードを無効にする方法については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

- 1 **Setup Password** — システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。

 **メモ:** セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更に関する手順については、「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れてしまったセットアップパスワードを無効にする方法については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

- 1 **Power Button** — このオプションがEnabledに設定されている場合、電源ボタンを使用してシステムの電源を切ることができます(または、ACPI仕様に対応したMicrosoft® Windows® 2000などのオペレーティングシステムを使用している場合、システムをシャットダウンすることができます)。このオプションがDisabledに設定されている場合、電源ボタンを使用してシステムの電源を切ることができません。

Exit画面

<Esc>を押しセットアップユーティリティを終了すると、Exit画面が次の選択肢を表示します。

- 1 Save Changes and Exit(変更を保存して終了)
- 1 Discard Changes and Exit(変更を保存せずに終了)
- 1 Return to Setup(セットアップへ戻る)

システムパスワード機能の使い方

- **注意:**パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供しますが、決して万全ではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

お使いのシステムは、出荷時にシステムパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、必ずシステムパスワード保護機能を有効にしてシステムを操作してください。

セットアップユーティリティを使用して、いつでもシステムパスワードを設定できます。システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、システムの全機能を使用することはできません。

System PasswordオプションがEnabledに設定されている場合、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動直後に表示されます。

既存のシステムパスワードを変更するには、そのパスワードを事前知っておく必要があります(「[既存のシステムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照)。設定したパスワードを忘れた場合、システムパスワードを取り外し、ジャンパの設定を変更してシステムパスワード機能を一時的に解除する必要があります(「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照)。ただし、セットアップパスワードも同時に消去されるので注意してください。

- **注意:**システムパスワードを設定せずに実行中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワード機能を無効にすることができません。結果、誰でもハードドライブ内の情報にアクセスできるようになります。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動して、System Passwordオプションを確認する必要があります。

システムパスワードが設定されている場合、System Passwordオプションに表示される設定はEnabledです。システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワード機能が解除されている場合は、その設定はDisabled by Jumperと表示されます。これらの設定のいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上のパスワードジャンパが有効な位置(デフォルト)に設定されている場合、System PasswordオプションはNot Enabledと表示されます。このオプションがNot Enabledに設定されている場合にのみ、次の手順でシステムパスワードを設定することができます。

1. Password StatusオプションがUnlockedに設定されていることを確認します。
2. System Passwordオプションをハイライト表示して、左右矢印キーを押します。
3. 新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードには7文字まで使用できます。

それぞれの文字キー(または空白としてのスペースバー)を押すごとに「*」が表示されます。

パスワードの設定操作では、キーボード上の位置でキーが認識され、大文字と小文字は区別されません。例えば、パスワード設定時にMを入力しても、Mとmの両方が正しい文字として認識されます。無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカからビーブ音が鳴ります。入力した文字を訂正する場合、<Backspace>または左矢印キーを押します。

- **メモ:**システムパスワードの入力を途中で中止したい場合、<Tab>または<Shift><Tab>を押して別のフィールドに移動するか、手順5を終了する前に<Esc>を押します。

4. <Enter>を押します。

新しく設定したシステムパスワードが7文字未満の場合、残りの部分には「*」が挿入されます。オプション名がVerify Passwordに変わり、その後ろに7文字分の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、再度パスワードを入力して<Enter>を押します。

パスワード設定はEnabledに変わります。これで、システムパスワードが設定されました。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用することができます。ただし、電源を入れなおしてシステムを再起動しないと、パスワード保護機能は有効にならないので注意してください。

システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

電源を入れるか、または<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動した際に、Password StatusオプションがUnlockedに設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Type in the password and... -- press <ENTER> to leave password security enabled. -- press <CTRL><ENTER> to disable password security. Enter password:
```

(パスワードを入力し... -- <ENTER>を押してパスワードセキュリティを有効のままにします。-- <CTRL><ENTER>を押してパスワードセキュリティを無効にします。パスワードを入力してください。)

Password StatusオプションがLockedに設定されている場合、次のプロンプトが表示されます。

```
Type the password and press <Enter>.  
(パスワードを入力し、<ENTER>を押してください。)
```

正しいシステムパスワードを入力して<Enter>を押すと、システムが起動し、キーボードやマウスを使用して通常通りにシステムを操作できます。

- **メモ:**セットアップパスワードを設定している場合(「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
```

```
Enter password:  
(** 間違ったパスワード**  
パスワードを入力してください。)
```

2回目も誤ったシステムパスワードまたは不完全なシステムパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。


システムパスワードを3回間違えると、それ以降は次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **  
Number of unsuccessful password attempts: 3  
System halted! Must power down.  
(** 間違ったパスワード**  
間違ったパスワードの入力回数: 3
```

システムが停止します。)

適切なシステムパスワードを入力するために試みた不成功の回数によって、認証されていないユーザーがシステムにアクセスしようとしていることがわかります。

システムの電源を入れなおした後も、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力する度に、前述のメッセージが表示されます。

 **メモ:** Password Statusオプションの他にSystem PasswordとSetup Passwordオプションも併用すると、無許可の変更からシステムを保護することができます。

既存のシステムパスワードの取り消しと変更

1. <F2>を押して、セットアップユーティリティを起動します。
2. System Security画面フィールドを選択して、Password StatusオプションがUnlockedに設定されていることを確認します。
3. システムを再起動して、システムパスワードを要求するプロンプトを表示させます。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. <Enter>を押して通常の操作を続ける代わりに、<Ctrl><Enter>を押して既存のシステムパスワードを無効にします。
6. セットアップユーティリティのSystem PasswordオプションにNot Enabledと表示されていることを確認します。

System PasswordオプションにNot Enabledと表示される場合、システムパスワードが取り消されたことを意味します。新しいパスワードを設定する場合、手順 7に進みます。System PasswordオプションにNot Enabledと表示されない場合、<Alt>を押してシステムを再起動し、手順 4~6を繰り返します。

7. 新しいパスワードを設定するには、「[システムパスワードの設定](#)」の手順に従います。

セットアップパスワード機能の使い方


お使いのシステムは、出荷時にセットアップパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、必ずセットアップパスワード保護機能を有効にしてシステムを操作してください。

セットアップユーティリティを使用して、いつでもセットアップパスワードを設定できます。セットアップパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、セットアップユーティリティの全機能を使用することはできません。

既存のセットアップパスワードを変更するには、そのパスワードを事前を知っておく必要があります(「[既存のセットアップパスワードの取り消しと変更](#)」を参照)。設定したセットアップパスワードを忘れた場合、システムシャーンを開き、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にしてから、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更することはできません。「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup PasswordオプションがNot Enabledに設定されている場合にのみ、設定(または変更)できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Passwordオプションをハイライト表示して、左右矢印キーを押します。パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のビーブ音が鳴ります。

 **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。それら2つのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができます。

パスワードの確認が終わると、Setup Passwordの設定はEnabledに変わります。これ以降、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。


Setup Passwordオプションへの変更はただちに有効になります(再起動は必要ありません)。

セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup PasswordがEnabledに設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップユーティリティオプションを変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、プログラムプロンプトが表示され、パスワードを入力するよう求められます。

3回までの入力で正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、次の例を除いて変更することはできません。

1. Date, Time, Keyboard Num Lock、およびSpeakerオプションは変更可能です。
1. System Passwordが有効でなく、Password Statusオプションを使ってロックされていない場合、システムパスワードを設定できます(ただし、既存のシステムパスワードを無効にしたり変更したりすることはできません)。

 **メモ:** Setup PasswordオプションといっしょにPassword Statusオプションを使うと、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

既存のセットアップパスワードの取り消しと変更

既存のセットアップパスワードを取り消しまたは変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動して、System Securityオプションを選びます。
2. Setup Passwordオプションをハイライト表示し、左右矢印キーを押して、既存のセットアップパスワードを取り消します。

設定はNot Enabledに変わります。

3. 新しいセットアップパスワードを設定したい場合、「[セットアップパスワードの設定](#)」の手順に従います。

パスワードを忘れたとき

システムパスワードまたはセットアップパスワードを忘れると、システムシャーンを開いて、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にし、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更することはできません。この手順は、『インストール&トラブルシューティング』の「ジャンパ、スイッチ、コネクタ」に記載されています。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ PowerEdge™ 600SGシステム ユーザーガイド

次のリストでは、システムマニュアルで使用される技術用語、略語の意味を示します。

A

ampere (アンペア)

AC

alternating current (交流)

BIOS

basic input/output system (基本入出力システム)。システムのBIOSは、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムからなります。BIOSは、下記の事項を制御します。

- 1 キーボードやビデオアダプタなど、マイクロプロセッサと周辺機器間のコミュニケーション
- 1 システムメッセージなどの付属機能

bps

bits per second (1秒あたりのビット数)

BTU

British thermal unit (英式熱量単位)

C

Celsius (摂氏)

CD

compact disc (コンパクトディスク)。CD-ROMドライブでは光学テクノロジーを使って、CDからデータを読み取ります。CDは読み取り専用のストレージです。通常のCDドライブでは、新しいデータをCDに書き込むことはできません。

CERC

cost-effective RAID controller (費用効率の高いRAIDコントローラ)

COMn

システムの第1シリアルポートから第4シリアルポートに対応するデバイス名は、COM1、COM2、COM3およびCOM4です。COM1およびCOM3のデフォルト割り込みはIRQ4、そしてCOM2およびCOM4のデフォルト割り込みはIRQ3です。したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときは、割り込みコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

cpi

characters per inch (1インチあたりの文字数)

CPU

central processing unit (中央演算処理装置)。**マイクロプロセッサ**を参照してください。

dB

decibel (デシベル)

dBA

adjusted decibel (補正デシベル)

DC

direct current (直流)

DDR

double data rate (2倍データ率)

DIMM

dual in-line memory module (デュアルインラインメモリモジュール)。DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

Deutsche Industrie Norm (ドイツ工業規格)

DIP

dual in-line package(デュアルインラインパッケージ)。通常、システム基板や拡張カードなどの回路基板には、その回路基板を設定するためのDIPスイッチがあります。DIPスイッチはON位置とOFF位置を持つ切り替えスイッチです。

DMA

direct memory access(ダイレクトメモリアクセス)。DMAチャンネルを使うと、RAMとデバイス間でのデータ転送がマイクロプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMI

Desktop Management Interface(デスクトップ管理インタフェース)。DMIは、システムのソフトウェアとハードウェアの管理を可能にします。DMIは、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、および管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を修正します。

DPMS

Display Power Management Signaling(ディスプレイ消費電力管理信号)。モニタの節電機能を起動するためにビデオコントローラから送信されるハードウェア信号を定義するための標準です。DPMS準拠のモニタは、システムのビデオコントローラから特定の信号を受信して電源管理の状態になるように設計されています。

DRAM

dynamic random-access memory(ダイナミックランダムアクセスメモリ)。通常、システムのRAMはDRAMチップだけから構成されます。DRAMチップは電荷を長くは保持できないため、システムの各DRAMマイクロプロセッサは定期的によりフレッシュされます。

DTE

data terminal equipment(データ端末装置)。システムなど、ケーブルや通信回線によってデジタル形式でデータを送信できる装置のことです。DTEは、モデムなどのDCE(データ通信回線)を介して、ケーブルや通信回線に接続します。

DVD

digital video disc(デジタル多目的ディスク)。CDより容量とバンド幅の大きな読み取り専用オプティカルストレージデバイスです。DVDは、マルチメディアおよびデータストレージに使用できます。

ECC

error checking and correction(エラーチェックおよび訂正)

ECP

Extended Capabilities Port(拡張機能ポート)

EEPROM

electrically erasable programmable read-only memory(電氣的に消去/書き込み可能なROM)

EIDE

enhanced integrated drive electronics。EIDEデバイスは、標準のIDEデバイスに、次の1つまたは複数の機能が加わります。

- 1 最大16 MBpsのデータ転送速度
- 1 CDドライブやテープドライブなどのハードドライブ以外のドライブもサポート
- 1 528 MB以上の容量のハードドライブをサポート
- 1 それぞれ2つまでのデバイスが装着されたコントローラを、2つまでサポート

EMC

Electromagnetic Compatibility(電磁環境両立)

EMI

electromagnetic interference(電磁波障害)

EMM

expanded memory manager(EMSメモリマネージャ)。拡張メモリを使用してEMSメモリをエミュレートするユーティリティ。

EMS

Expanded Memory Specification(EMSメモリ仕様)

EPROM

erasable programmable read-only memory(消去可能なプログラマブル読み取り専用メモリ)

ESD

electrostatic discharge(静電気放出)

EMSメモリ

1 MB以上のRAMにアクセスする技法。システムのEMSメモリを有効にするには、EMMを使用しなければなりません。EMSメモリを使用できる(またはEMSメモリが必要な)アプリケーションプログラムを実行する場合のみ、システムをEMSIに設定する必要があります。

F

Fahrenheit(華氏)

FAT

file allocation table(ファイル割り当てテーブル)。FATはファイルストレージを管理するためにMS-DOSで使用されるファイルシステム構造です。他のいくつかのオペレーティングシステムでは、オプションとしてFATファイルシステム構造を使用することができます。

FCC

Federal Communications Commission(連邦通信委員会)

ft

feet(フィート)

FTP

file transfer protocol(ファイル転送プロトコル)

g

gram(グラム)

G

gravities(重力)

GB

gigabyte(ギガバイト)。1 GBは1,024 MB(1,073,741,824バイト)です。

GUI

graphical user interface(グラフィックユーザーインターフェース)

h

hexadecimal(16進法)。システムのRAMのアドレスやI/Oメモリのデバイス用アドレスを指定するために使われる16を基数とする記数法です。例えば、0から16までの10進数は16進法では、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10のように表されます。テキスト内では、数字の後にhを付けます。

Hz

hertz(ヘルツ)

ICES

Interface-Causing Equipment Standard(カナダ)

ID

identification(識別)

IDE

integrated drive electronics。

I/O

input/output(入出力)。キーボードは入力デバイスであり、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O動作はコンピュータ計算とは区別することができます。例えば、プログラムがドキュメントをプリンタに送るときが出力動作、用語のリストをソートするときにコンピュータ計算です。

IPX

internetwork packet exchange(ネットワーク間パケット交換)

IRQ

interrupt request(割り込み要求)。周辺機器からデータを送受信するときの信号は、IRQを介してマイクロプロセッサに送られます。各デバイスコネクタは、IRQ番号を割り当てられなければなりません。例えば、お使いのシステムの第1シリアルポート(COM1)には、デフォルトでIRQ4が割り当てられています。2つのデバイスは同じIRQ番号を共有できますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ITE

information technology equipment(情報技術装置)

K

kilo-(キロ)、1,000を表します。

KB

kilobyte(キロバイト)。1キロバイトは、1,024バイトです。

KB/sec

kilobyte(s) per second(1秒あたりのキロバイト数)

Kbit(s)

kilobit(キロビット)。1キロビットは1,024ビットです。

Kbit(s)/sec

kilobit(s) per second(1秒あたりのキロビット数)

kg

kilogram(キログラム)。1キログラムは、1,000グラムです。

KHz

kilohertz(キロヘルツ)。1キロヘルツは、1,000ヘルツです。

LAN

local area network(ローカルエリアネットワーク)。通常、LANシステムは、すべての装置がLAN専用のワイヤによって接続されている近隣の建物内だけで使われます。

lb

pound(ポンド)

LED

light-emitting diode(発光ダイオード)。LEDは、電流が通過すると点灯する電子装置です。

LPTn

システム上にある1~3番目のパラレルポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、LPT3です。

m

meter(メートル)

mA

milliampere(ミリアンペア)

mAh

milliampere-hour(ミリアンペア時)

Mb

megabit(メガビット)

MB

megabyte(メガバイト)。1メガバイトは、1,024キロバイトまたは1,048,576バイトです。ただし、ハードドライブの容量を表す場合は、通常、概数にして100万バイトとします。

MB/sec

megabytes per second(1秒あたりのメガバイト数)

Mbps

megabits per second(1秒あたりのメガビット数)

MBR

master boot record(マスタートレコード)

MHz

megahertz(メガヘルツ)

MIDI

musical instrument digital interface(音響機器デジタルインタフェース)

MIF

management information format(管理情報フォーマット)。MIFファイルには、コンポーネント計装への、情報、ステータス、およびリンクが含まれています。MIFファイルは、DMIサービスレイヤーによって、MIFデータベースにインストールされます。MIFの内容は、DTMF作業委員会によって定義され、MIF定義文書の形式で出版されています。このマニュアルは、DMI管理可能コンポーネントに関するグループや属性について定義しています。

mm

millimeter(ミリメートル)

MPEG

Motion Picture Experts Group。MPEGはデジタルビデオファイルフォーマットです。

ms

millisecond(ミリ秒)

MTBF

mean time between failures(平均故障間隔)

mV

millivolt(ミリボルト)

NDIS

Network Driver Interface Specification(ネットワークドライバインタフェース仕様)

NIC

network interface controller(ネットワークインタフェースコントローラ)

NLM

NetWare® Loadable Module(NetWareロード可能モジュール)

NMI

nonmaskable interrupt(マスク不能型割り込み)。パリティエラーなどのハードウェアエラーが起きた場合、デバイスはマイクロプロセッサに知らせるためにNMIを送ります。

ns

nanosecond(ナノ秒)。10億分の1秒。

NTFS

NT File System(NTファイルシステム)。Microsoft Windows NTオペレーティングシステムのオプションです。

NVRAM

nonvolatile random-access memory(不揮発性ランダムアクセスメモリ)。システムの電源を切っても、内容は失われません。NVRAMは、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

OTP

one-time programmable(一回限りプログラム可能)

PCI

Peripheral Component Interconnect(周辺機器相互接続)。標準のローカルバス規格です。

PGA

pin grid array(ピングリッドアレイ)。マイクロプロセッサチップの取り外し可能なマイクロプロセッサソケットです。

POST

power-on self-test(電源投入時の自己診断)。システムの電源が入ると、オペレーティングシステムをロードする前に、POSTがRAM、ディスクドライブ、キーボードなどの様々なシステムコンポーネントをテストします。

ppm

pages per minute(1分あたりのページ数)

PS/2

Personal System/2

PXE

preboot execution environment(プリブート実行環境)

RAID

redundant array of independent disks

RAM

random-access memory(ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。RAMに保存されている情報は、システムの電源が切れるとすべて失われます。

readmeファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属するテキストファイル。ソフトウェアまたはハードウェアのマニュアルの補助およびアップグレード情報が記載されています。通常、readmeファイルには、マニュアルに記載されていないインストール情報、新製品についての説明、あるいは訂正文が含まれます。また、ソフトウェアまたはハードウェアを使用する際に必要となる、既知の問題やその他の事項が記載されています。

RFI

radio frequency interference(ラジオ周波数障害)

RGB

red/green/blue(赤/緑/青)

ROM

read-only memory(読み取り専用メモリ)。システムの動作に必要なプログラムのいくつかはROMコードの中に保存されています。RAMとは異なり、ROMチップはシステムの電源が切れた後もその内容を保持します。ROM内にあるコードには、システムの起動ルーチンを開始するプログラムやPOSTなどがあります。

rpm

revolutions per minute(1分あたりの回転数)

RTC

real-time clock(実時刻時計)。システム内部にあるバッテリーで動く時計回路で、システムの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

SCSI

small computer system interface(小型コンピュータシステムインタフェース)。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つI/Oバスインタフェース。1つのSCSIインタフェースに最大7つのデバイス(いくつかの新しいSCSIタイプは15)を接続できます。

SDMS

SCSI device management system(SCSIデバイス管理システム)

SDRAM

synchronous dynamic random-access memory(同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)

sec

second(秒)

SEC

single-edge contact(単一エッジコンタクト)

SIMD

Single Instruction Multiple Data(単一命令多重データ)

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology。システムBIOSにエラーや障害があった場合に、ハードドライブが報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART準拠のハードドライブおよびシステムBIOSのサポートが必要です。

SNMP

Simple Network Management Protocol。SNMPによって、ネットワーク管理者はリモートでワークステーションを監視したり管理することができます。

SRAM

static random-access memory(スタティックRAM)。SRAMチップは、リフレッシュが必要ないため、DRAMチップよりも数倍高速です。

SVGA

super video graphics array(スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、システムにインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

tpi

tracks per inch(1インチあたりのトラック数)

UL

Underwriters Laboratories(保険業者研究所)

UMB

upper memory blocks(アッパーメモリブロック)

UPS

uninterruptible power supply(無停電電源装置)。電氣的な障害が起きた場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー電源装置。

USB

Universal Serial Bus。USBコネクタによって、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカーなど、USBに準拠した複数のデバイスに対して、単独結合ポイントを使えるようになります。USBデバイスは、システムが起動中でも接続したり、取り外したりできます。

UTP

unshielded twisted pair(シールドなしツイストペア)

V

volt(ボルト)

VAC

volt alternating current(ボルト交流)

VCCI

Voluntary Control Council for Interference(電波障害自主規制協議会)

VCR

video cassette recorder(ビデオカセットレコーダ)

VDC

volt direct current(ボルト直流)

VGA

video graphics array(ビデオグラフィックスアレイ)。VGAとSVGAは、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニタやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタ用にインストールされたビデオメモリ容量に応じて異なります。

VGA対応コネクタ

VGAビデオアダプタが組み込まれた一部のシステム上では、VGA対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをシステムに追加することができます。VGA対応コネクタは、VGAバスルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

very-large-scale integration(超大規模集積回路)

Vpp

peak-point voltage(ピーク時電圧)

VRAM

video random-access memory(ビデオランダムアクセスメモリ)。ビデオアダプタの中には、VRAMチップ(またはVRAMとDRAMの組み合わせ)を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAMはデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時におこなうことができます。

W

watt(ワット)

WH

watt-hour(ワット時)

XMM

extended memory manager(拡張メモリマネージャ)。アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムが、XMSに沿って拡張メモリを使えるようにするユーティリティ。

XMS

eXtended Memory Specification(拡張メモリ仕様)

ZIF

zero insertion force(ゼロ挿入圧力)。一部のシステムでは、ZIFソケットやZIFコネクタを使用してデバイス(マイクロプロセッサチップなど)の取り付けや取り外しをおこなうときに、デバイスに圧力がかからないようにします。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。アダプタカードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースを提供することによって、システムに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSIアダプタなどがあります。

アプリケーションプログラム

ユーザーが特定のタスクまたは一連のタスクを実行するのを助けるためのソフトウェア(表計算プログラムやワードプロセッサなど)。アプリケーションプログラムは、オペレーティングシステムから実行されます。

インターレース

画面上の代替水平線だけを更新してビデオ解像度を増加させる技法。インタレースを使用すると画面のちらつきが目立つ場合があるため、ユーザーにはノンインタレースのビデオアダプタ解像度が好まれています。

インタリーピング

データシーケンスの一部を並び替え、同じデータの別のシーケンスの一部と交換することによってデータをより効率的に保存する技術。データが検索されると、システムはシーケンスを再び元に戻します。

オンラインアクセスサービス

Internet、電子メール、電子掲示板、チャットルーム、ファイルライブラリへのアクセスを提供するサービス。

カードエッジコネクタ

拡張カードの底部にある金属接触部分で、拡張カードコネクタを差し込みます。

外部キャッシュメモリ

SRAMチップを使用するRAMキャッシュ。SRAMチップはDRAMチップよりも数倍高速であるため、マイクロプロセッサによるデータや命令の取り出しは、RAMを使用する場合よりも外部キャッシュメモリを使用した方が高速になります。

書き込み保護

読み取り専用ファイルは、**書き込み保護**とも呼ばれます。3.5インチのディスクを書き込み保護にするには、ディスクの書き込み保護タブをスライドさせて開いた位置にするか、セットアップユーティリティで書き込み保護機能を設定します。

拡張カードコネクタ

拡張カードを差し込むシステム基板またはライザボード上のコネクタ。

拡張バス

システムには、拡張バスが装着されています。この拡張バスによって、ネットワークカードや内蔵モデムなどの周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサが通信することができます。

拡張メモリ

1 MB以上のRAM。拡張メモリを使用できるほとんどのソフトウェア (Microsoft® Windows® オペレーティングシステムなど) では、拡張メモリをXMMで制御する必要があります。

画素 (ピクセル)

ビデオ画面上の単一の点。ピクセルは画像を表示するために行列形式に並べられます。例えば、640 × 480というビデオ解像度は、横方向に640個のピクセル、縦方向に480個のピクセルが並んだ行列として表されます。

仮想メモリ

ハードドライブを使用して、アドレス可能なRAMを増加させる技法。例えば、16 MBのRAMを搭載したシステムのハードドライブ上で16 MBの仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MBの物理RAMが存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

管理タグ番号

セキュリティまたはトラッキング目的のために、通常、システム管理者がシステムに割り当てる個々の番号。

キーの組み合わせ

コマンドを送るために同時に押す複数のキー。例えば、<Ctrl><Alt>のキーの組み合わせを押すと、システムを再起動できます。

起動ルーチン

システムを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードがおこなわれます。オペレーティングシステムが応答しない場合、<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動できます (ウォームブートとも呼ばれます)。それでもオペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源を一度切ってから入れなおすことによって、システムを再起動 (コールドブート) しなければなりません。

キャッシュ

データを高速検索するための、データまたは命令のコピーを保持する高速記憶領域。例えば、システムのBIOSでは高速RAMにROMコードがキャッシュ (保持) されます。また、ディスクキャッシュユーティリティでは、頻りにアクセスされる情報がシステムのディスクドライブからRAMに保持されます。キャッシュ内にあるデータについて、プログラムからディスクドライブに対して取り出し要求が発行されると、ディスクキャッシュユーティリティはRAMからデータを取り出すので、ディスクドライブから取り出す場合よりも検索時間が短縮されます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照。

グラフィックモード

「x 個の横ピクセル × y 個の縦ピクセル × z 種類のカラー」で定義されるビデオモード。

グループ

(DMIに関連した用語として) グループは、管理可能コンポーネントについての、一般情報または属性を定義するデータ構造です。

コプロセッサ

システムのマイクロプロセッサを特定の処理タスクから解放するチップ。例えば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を制御します。グラフィックコプロセッサはビデオレンダリングを処理します。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリの間、またはマイクロプロセッサと周辺機器 (ディスクドライブやキーボードなど) との間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブインジケータ、電源インジケータなどのインジケータやボタンを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAMの最初の640 KB。コンベンショナルメモリすべてのシステムに存在します。MS-DOS® プログラムは特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内でのみ実行されます。

コンポーネント

DMIと関連した、管理可能なコンポーネントは、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、および周辺機器であり、DMIと互換性があります。各コンポーネントは、グループおよび属性を構成し、そのコンポーネントに関連したものとして定義されます。

サービスタグナンバー

テクニカルサポートを受けるためにお電話をいただいた際に、システムを識別するためのシステムに付いているバーコードラベル。

システム基板

主要回路基板であるシステム基板には、一般に下記のような、システムを構成するために必要な部品のほとんどが取り付けられています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 キーボードなどの標準周辺機器のコントローラ
- 1 各種のROMチップ

システム基板は、マザーボード、ロジックボードと同義語です。

システム設定情報

メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記載されています。

システムディスクレット

起動ディスクレットと同義語です。

システムメモリ

RAMと同義語です。

シャドウイング

コンピュータのシステムとビデオのBIOSコードは、通常ROMチップに格納されています。シャドウイングとは、起動ルーチンの実行中に(640 KB以降の)上位メモリ領域の高速RAMチップにBIOSコードをコピーして性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは回路基板上の小さなブロックで、2本以上のピンが出ています。ワイヤを格納しているプラスチック製プラグが、ピンに被せられています。ワイヤは、ピン同士を接続して回路を形成します。ジャンパを使用すれば、プリント回路基板の回路構成を簡単に変更できます。

周辺機器

システムに接続される内蔵装置または外付け装置(プリンタ、ディスクドライブ、キーボードなど)。

上位メモリ領域

640 KBから1 MBの間にある384 KBのRAM。システムにIntel386以上のマイクロプロセッサが搭載されている場合、メモリマネージャと呼ばれるユーティリティが上位メモリ領域でUMBを作成できます。そこにはデバイスドライバおよびメモリ常驻プログラムをロードすることができます。

シリアルポート

システムにモデムを接続するときに、最も多く使われるI/Oポート。システムのシリアルポートには、通常、9ピンのコネクタが使われます。

シンタクス(構文法)

システムによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。

診断プログラム

システム用の総合テストセット。診断プログラムの使用方法の詳細については、『インストール &トラブルシューティング』を参照してください。

スイッチ

システム基板上で、スイッチはシステムのさまざまな回路や機能を制御します。これらのスイッチはDIPスイッチとして知られており、通常、2つまたはそれ以上の組でプラスチックケース内にパッケージされています。2つの一般的なDIPスイッチがシステム基板に使用されています。スライドスイッチとロッカースイッチです。スイッチの名前は、スイッチの設定(オンとオフ)がどのように変更されるかに由来します。

数値演算コプロセッサ

コプロセッサを参照。

セットアップユーティリティ

BIOSベースのプログラム。システムのハードウェアを構成したり、パスワードによる保護や電源管理などの機能を設定することによって、システムの動作をカスタマイズすることができます。セットアップユーティリティのオプションの中には、システムを再起動しない(またはシステムによっては自動的に再起動)ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティはNVRAMに保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

ターミネータ

いくつかのデバイス(SCSIケーブルの両端の最後のデバイスなど)は、ケーブル内の反射や不要信号を防止するため終端する必要があります。このようなデバイスを連結する場合は、デバイスの設定ソフトウェアのジャンパやスイッチの設定を変更することによって、これらのデバイスの終端を有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連するファイルがディスク上で「逆ツリー」の階層構造になるようにしています。各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。例えば、通常、C:\>プロンプトはハードドライブCのルートディレクトリにすることを示します。ルートディレクトリから分岐する追加のディレクトリは、サブディレクトリとも呼ばれます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっている場合もあります。

テキストエディタ

ASCII文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。例えば、Windowsのメモ帳などはテキストエディタです。ほとんどのワードプロセッサは、バイナリ文字を含む独自のファイル形式を使いますが、テキストファイルを読みだしたり書いたりできるものもあります。

テキストモード

x 列 x y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムやその他のプログラムがプリンタなどの周辺機器と正しくインターフェイスできるようにするプログラム。ネットワークドライバなどのいくつかのデバイスドライバは、メモリ常驻プログラムとして必ずロードされます。ビデオドライバなどの他のドライバには、プログラムを起動するときにロードする必要があるものがあります。

ドライブタイプ番号

システムでは、複数の種類のハードドライブが認識されます。個々のドライブにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAMに保存されます。セットアップユーティリティで指定されたハードドライブは、システムに取り付けられた実際のドライブと一致しなければなりません。セットアップユーティリティでは、NVRAMに保存されたドライブタイプ一覧に記載されていないドライブの物理パラメータ(論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号、バックこの論理セクタ)を指定することもできます。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに内蔵された命令キャッシュとデータキャッシュ。Intel Pentiumマイクロプロセッサには16 KBの内蔵キャッシュがあり、8 KBの読み取り専用命令キャッシュおよび8 KBの読み書き可能データキャッシュとしてセットアップされています。

ノンインターレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

ハードドライブを複数の物理区画(パーティションとも呼ばれます)に分割することを可能にするオペレーティングシステムの機能。各パーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

バイト

システムで使われる基本的なデータ単位。1バイトは8ビット。

バス

システムのコンポーネント間の情報経路。システムには、拡張バスが設置されています。この拡張バスによって、システムに接続されているすべての周辺機器のコントローラとマイクロプロセッサが通信することができます。また、マイクロプロセッサとRAM間の通信をおこなうために、アドレスバスとデータバスも装備されています。

バックアップ

プログラムまたはデータファイルのコピー。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブのバックアップを取ることをお勧めします。システムの設定を変更する前に、重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

バックアップバッテリー

バックアップバッテリーはシステムの電源が切られている間、システム設定、日付および時刻の情報をメモリの特別なセクション内に保持します。

パラメータ

プログラムに指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数とも呼ばれます。

パラレルポート

システムにプリンタを接続するときに、最も多く使われるI/Oポート。通常、システムのパラレルポートには25穴のコネクタを使います。

ヒートシンク

放熱のために役立つペグやリブが付いた金属板。ほとんどのマイクロプロセッサにはヒートシンクが組み込まれています。

ビーブコード

システムのスピーカーから流れるビーブ形式の診断メッセージ。例えば、1つのビーブ音、次に2つのビーブ音、そして3つの連続したビーブ音が聞こえた場合、ビーブコードは、1-1-3です。

ビット

システムが認識する情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタと連携してシステムのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタが持つ機能の種類は、特定のモニタが持つ機能とは異なる場合があります。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを、様々なビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

いくつかのシステムでは、システム基板にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

ビデオアダプタには、システム基板のRAMから独立したメモリがしばしば組み込まれています。ビデオメモリの量と、アダプタに付いてくるビデオドライバによって、同時に表示できる色の数が決まります。高速のグラフィックレンダリングを実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオドライバ

グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムにおいて、希望の色数と選択された解像度で表示するためのプログラム。ソフトウェアパッケージには、汎用ビデオドライバが含まれていることがあります。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどのVGAビデオアダプタとSVGAビデオアダプタには、システムのRAMとは別に、メモリチップが内蔵されています。取り付けられているビデオメモリの容量は、主にプログラムが表示できる色数によって異なります(これは対応するビデオドライバとモニタの機能にもよります)。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタは、複数のテキストモードおよびグラフィックモードをサポートしています。文字をベースにしたソフトウェアは、 x 列 y 行の文字数で表されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「 x 個の横ピクセル y 個の縦ピクセル z 種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

ビデオ解像度

例えば、 800×600 というビデオ解像度は、横方向に800個のピクセル、縦方向に600個のピクセルが並んだ行列として表されます。特定の解像度でプログラムを表示するには、ディスプレイが解像度をサポートし、適切なビデオドライバをインストールしなければなりません。

フォーマット

ファイルを保存するためにハードドライブやディスクを準備すること。無条件フォーマットをおこなうと、ディスクに格納された全データが消去されます。

プラグアンドプレイ

ハードウェアシステムをパーソナルシステムに容易に追加できるようにする、業界標準仕様。プラグアンドプレイは、自動インストールおよび構成、既存のハードウェアとの整合性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートを提供します。

フラッシュメモリ

システムに取り付けた状態で、ディスク内のユーティリティから再プログラムが可能なEEPROMチップの一種。ほとんどのEEPROMチップは特殊なプログラム用デバイスを使わなければ、書き込みできません。

プロテクトモード

80286以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB (80286マイクロプロセッサの場合) ~ 4 GB (Intel 386以降のマイクロプロセッサの場合) のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ (ハードドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

多くの32ビットのオペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOSはプロテクトモードで実行できません。ただし、MS-DOSから起動できる一部のプログラム (Windowsなど) は、システムをプロテクトモードに移行することができます。

ホストアダプタ

ホストアダプタによって、システムのバスと周辺機器用のコントローラ間の通信ができます。(ハードドライブコントローラサブシステムには、内蔵ホストアダプタ回路が組み込まれています。) SCSI拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタを取り付ける必要があります。

マイクロプロセッサ

演算およびロジック機能の解釈と実行を制御する、システム内部のプライマリ計算チップ。あるマイクロプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のマイクロプロセッサで実行するには、ほとんどの場合ソフトウェアを新しく書きなおさなければいけません。CPUはマイクロプロセッサの同義語です。

マウス

画面上のカーソルの動きをコントロールするポインティングデバイス。マウスが使用できるソフトウェアでは、画面上に表示されているオブジェクトを指しながらマウスボタンを押すことによって、コマンドを実行できます。

マルチスキャンモニタ

複数のビデオ規格をサポートするモニタ。マルチスキャンモニタは、各種のビデオアダプタからの信号周波数レンジに合わせて調整できます。

メモリ

システムは、RAM、ROM、およびビデオメモリなどの異なる型のメモリを持っています。「メモリ」という用語はRAMと同じ意味で使われることがあります。例えば、「16 MBのメモリを持つシステム」という場合、16 MBのRAMを持つシステムを指します。

メモリアドレス

システムのRAM内で16進法で表される特定の位置。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ (拡張メモリやEMSメモリなど) の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAMチップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

モデム

電話線を通して、他のシステムとの通信を可能にするデバイス。

ユーティリティ

メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステムリソースを管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルとは、編集や消去が禁止されているファイルのことを言います。ファイルは、下記の場合に読み取り専用になります。

- 1 読み取り専用属性が有効になっている場合。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク、または書き込み禁止ドライブ内のディスク上にファイルが存在する場合。
- 1 ファイルがディレクトリの中のネットワーク上にあり、システム管理者が読み取り権だけを許可している場合。

リアルモード

80286以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086マイクロプロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニタがモニタ画面上でビデオ画像を再描写する速度。精密に言うと、リフレッシュレートは、Hzで計測される周波数で、スクリーンの行がリチャージされる割合です(垂直周波数とも呼ばれます)。リフレッシュレートが高いと、ビデオフリッカーが見えにくくなります。また、高いリフレッシュレートはノンインタレースです。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムは特定の周辺機器(ビデオアダプタ回路など)が従来の拡張バスを持つシステムよりも高速に動作するよう設計されています。ローカルバスには、システムのマイクロプロセッサと同じ幅のデータバスおよび同じ速度で周辺装置を動作させるものもあります。

[目次ページに戻る](#)